

令和6年度事業報告

令和6年度一般財団法人狛江市文化振興事業団の施設利用、自主事業に関し、以下ご報告いたします。

令和6年度は第5期指定管理期間の初年度となりました。

まず、施設の稼働率につきましては前年と比べホール、展示多目的室、リハーサル室はいずれも1%前後の微増となっています。ホールのご利用は変わらず音楽系の市内外の団体、個人が主流ですがコロナ禍以前に比べ、舞踊系のバレエはもとより、今時のダンス系の団体の発表会でのご利用が増加傾向にあります。展示・多目的室は昨年度より1.5%と微増はしていますが、コロナ禍以前と比べてみますと、以前は60%代でしたので明らかに減少しており、他の施設のように戻っていない状況です。リハーサル室は定期的な個人練習での利用が増えていますが、今後は市内公民館などの施設の工事休館の影響により、利用者の増加が考えられます。引き続き、利用促進を図ります。

自主事業については29事業30公演（共催：7公演、協力：2公演を含む）を実施いたしました。

主な事業内容ですが、鑑賞型事業では（公財）文楽協会が窓口となった文楽地方公演の一か所として実施。文楽は過去に小規模で実施したことはありましたが、今回は初心者向けと本格的な公演の2本立てで実施し好評をいただきました。クラシック系の「金子三勇士」、「小山実稚恵」はほぼ完売、ポピュラー系は共催を含め「世良公則」「杉山清貴」「伊勢正三」、2度目となった「クレイジーケンバンド」など知名度の高い出演者が揃ったため、これらは完売となりました。昭和ブームの昨今ということで取り上げた「昭和の歌謡」はもう少し集客を期待したかった結果となりました。また、（公財）小平市文化振興財団と（一財）自治総合センターの助成による宝くじ文化公演「由紀さおり」を共同申請し、実施しました。

自主制作型事業は2事業実施。ひとつは12回目となったオープンハウス。祭りをテーマにプロの団体「荒馬座」と市民団体の協力を得て企画し、子どもから大人まで幅広い年齢の参加、来場があり、特に親子連れが多く見受けられました。そして、もうひとつの狛江ゆかりの音楽家を迎えての「エコルマ・アンサンブルコンサート」は14回目となり、ヨーロッパを拠点に活動する飯守朝子を迎えました。

その他の共催事業として、東京都交響楽団による地域住民無料招待コンサートを、また、例年の実施となっている「ふれあいこどもまつり」を実施しました。

限定220席での「エコルマほっとライブ」は6公演を実施、ウクライナの民族楽器バンドウーラ、中

国雑技は珍しさもあり、完売となりました。

また、狛江市の協力事業として「夏井いつき句会ライブ」と、狛江市（教育委員会）の市立小学校児童を対象とした「公共ホール音楽活性化支援事業ガラコンサート」を実施しました。支援型事業に関しては1個人、1団体を決定、実施しました。

なお、12月に予定していた「日野皓正 & 山下洋輔」は出演者の都合により中止となりました。

今年度は例年に比べ共催事業が多く事業数も多くなりましたが、全体的に好調で集客も順調でした。チケットのインターネット予約状況も公演内容によって差はありますが、順調な稼働となっています。

今後、施設利用者や聴衆の高齢化、物価高の影響が出始めてくるものと思われますが、引き続き施設の利用状況の把握、近隣ホールなどとの情報交換を行います。そして、来年度の開館30年を起点に、新たな気持ちで事業展開をして参ります。